

知り合う

将来の報酬（例えば、テスト勉強や大きな買い物のための貯金）のために一生懸命努力した時のことを思い出してください。 その「将来への希望」は、今の行動にどのような変化をもたらしましたか？

聖句　コリントの信徒への手紙一 15:29-34（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

29 そうでなければ、死者のために洗礼(バプテスマ)を受ける人たちは、何をしているのでしょうか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼(バプテスマ)など受けるのですか。30 また、なぜ私たちはいつも危険を冒しているのですか。31 きょうだいたち、私たちの主キリスト・イエスにあって私が持つ、あなたがたに対する誇りにかけて言えば、私は日々死んでいます。32 エフェソで獣と闘ったことがただ人間的なことにすぎないのなら、私に何の益になるでしょう。死者が復活しないとしたら、／「食べたり飲んだりしよう／どうせ明日は死ぬのだから」ということになります。33 思い違いをしてはいけません。／「悪いつきあいは、善い習慣を損なう」のです。34 正気になって、正しい生活を送りなさい。罪を犯してはなりません。神について無知な人々がいるからです。私がこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか?

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 29〜32節でパウロは、もし復活がなければ、バプテスマも自らが福音のために受けている苦しみも無意味であると論じています。 将来への希望があることで、現在の行動や犠牲が意味を持つのはなぜでしょうか？

2. 33節でパウロが言う「悪いつきあいは、善い習慣を損なう」とはどういう意味でしょうか？ これは、復活を信じない人々とどのように関係していますか？

3. 説教では、32節に基づいて人生に対する2つの対照的な姿勢が示されました。永遠の満たし（復活の希望）を目指して生きる事と、ただ「食べたり飲んだりしよう」と今日だけのために生きる事には、どのような違いがありますか？

4. 34節の「正気になって、正しい生活を送りなさい。罪を犯してはなりません。」というパウロの命令は、どのような意味がありますか？ 復活の真理を忘れることが、怒りのような罪深い態度や行動につながるのはなぜでしょうか？

分かち合い

話し合い　その1

武先生は果物狩りの話をされ、復活のない人生を「網いっぱいに果物を集めても家に持ち帰れないようなもの」と例えました。 このたとえは、なぜ私たちが今の楽しみだけでなく、永遠のものに目を向けるべきなのかをどのように説明していますか？ あなた自身は、どのようにして永遠のことに焦点を当てていますか？

話し合い　その2

武牧師は、職場や奉仕の場で自分の願いが満たされないときに怒ってしまう例を挙げ、それがまるで復活がないかのように生きている姿だと語られました。 このような態度は、「神についての無知」を表しているのと、どのように似ているでしょうか？ また、自分の願いではなく、神への従順を通して本当の喜びを見出すことについて、私たちは何を学べるでしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。